広報
かわち
発行所　河内村公民館
発行人　篠田彦次
編集人
印刷所　龍崎活版所

今年を省みて想う

村長　青野隆一郎

われわれ農業の問題と取り組んでおる者にとりまして、昭和三十五年にその移り変りがどうであったかという事について振り返ってみるのも必要と思うのであります。

第一に昨年の暮から今年の初めにかけまして、ガットによる、所謂、貿易と関税に関する一般協定のその国際会議においてです、加盟各国は各々の国が、自国の農業に対する保護政策を止めるべきであるという強い意見が出て参りまして、結果においては、総会で英国外一国が農業の保護政策をやめ、総会の決議に従う事になったのでありますがその考え方なども、その影響なりが、われわれの国においても、除に碍に表れまして、所謂、国の予算で食糧増産対策費という名目で計上されておった処の農業費が、農業基盤整備費という形に衣替えして参ったのであります。

又次には貿易の自由化という事が盛んにさけばれまして、いわゆる、資本主義諸国、アメリカを中心としました処の自由主義諸国がお互の経済の繁栄を図る為にはお互が関税しようべき撤廃致し、又国内産業の保護政策をできる丈抑制致しまして、そして自由な立場にたっての、競争、自由な立場にたっての貿易を、推進していかなければ、資本主義国、自由主義国の発展にはならないという、そういう声が非常に強くもち上りまして、御多聞にもれず、第一番に食糧中心の問題となって登場させられたのであります。

次には六年続きの大豊作によりまして、人口と消費の関係から計算致しますると、今年は完全に国内で自給自足して米は余っておるのであります。そういう状況に立ち至ったという事と、次には内閣が変りまして、池田内閣が農民人口三分の一減という事を、しょうめんの問題として、所謂、国内に提起したんでありますこれも農業人としては非常に大きな問題でありまして、たいって見逃すわけには参らないのであります。

又次にはアメリカのドルが、アメリカの通貨が資本主義国通貨として中心をなしておったのでありますけれども、引続く対外支払いに多くの金が流れまして、遂に一八〇億ドルの金準備を割った事によって米国の大統領が国外に対する支払いを抑制する緊急な処置を幾つかとったという事であります、これはとりもなおさず、どういう事になる可能性があるかと申しますと、アメリカが日本を日本が投資余力を持っておらなかった場合には、東亜諸地域の農業諸国から、見返りとして、食糧国を中心として、木材、その他を輸入して、資本の輸出をしなければならんという、そういう状態に立ち至るという事を考えなくてはなりません、故に不必要であるに拘らず、米の輸入をしなければならんという、そういう状況が一段と濃化しているといえるのであります。

最后に、今の池田総理大臣が、自民党の総裁であった約十年前に何という事を言ったかと申しますと貧乏人は麦を食えと開発をするような形になりましたが東亜諸地域の未開発地域の開発のあるならば、米国の代りに日本が投資余力を持っておらなかった場合には、東亜諸地域の農業諸国から、見返りとして、食糧国を中心として、木材、その他を輸入して、資本の輸出をしなければならんという、そういう状態に立ち至るという事を考えなくてはなりません、故に不必要であるに拘らず、米の輸入をしなければならんという、そういう状況が一段と濃化しているといえるのであります。

田単作地帯において明瞭にそれが看取されるのであります。

というのは当時は米の開値が一俵七千円以上しておりましたんですが、現在は丸公を、或は、割っておるんではないでしょうか、そこに却って、生産が増加しておるに拘らず、農人は減じておるという、そういう現実にわれ〜はぶつかっておるのであります。

しからばです、今年を振り返って、そういう結果になっておりますけれども、今後は如何になくてはならんのかという問題でありますが、度々の会合や、広報紙上で申しましたが、われ〜は水田単作という、その農業経営から、近代的な農業経営へ、一歩踏みこむべき時が来年であるという事を見極めまして決心を新たにして進まなくてはなりません、それと同時に新たな農業経営に進む為には新たな農業資本を必要とします。故に村は農協と一体となり我が村の農業発展に全力を傾注するつもりです

昭和三十五年を省みて種々の事がありましたが、我々の向上はわれ〜われの相互の協力と各個の努力なくして発展向上はありません、そういう意味で各位の深い御理解と一層の御協力を御願いする次第であります。

完成近い!!
河内中学校々舎増築

去る八月に起工した河内中学校校舎増築工事は順調にすゝみ、十二月十一日上棟式が行われました。

増築校舎は鉄筋コンクリート二階

総坪数　一百三十六坪

総工費八百六十五万二千五百円

完成により教室二つと、理科室、理科準備室、放送室、職員室、校長兼応接室等が新たにでき、明春入学する生徒の増員に事かゝない状態になるわけであります。

『人権週間』を意義あるものに

私達はこの際、人権の尊重が今日の人間生活にとって欠くことのできない基礎条件である事を認識し、お互に自他の人権を尊重し合い、民主的な社会をつくるようこんどの「人権週間」を意義あるものにしたいものです。

直営診療所増築工事の畜産センター廐舎工事
入札が行われました

◎一、直営診療所増築工事入札について、昭和三十五年十二月二十一年前十時半より河内村役場会議室に於て、三社（河内村篠崎工務店、竜ケ崎市桜井建設K K、阿見町細谷建設K K）と畜産農業協同組合理事、大野信氏（長笠農協組合長）並に、土浦支庁江戸崎支所経済課主事林慶康氏、立会いのもと、設計書及び、現場説明を行え、午后一時三十分より競争入札が行われたその結果

病棟　六七坪（木造平家建）医師住宅一五坪（木造平家建）工費二百七十万円を以って、篠崎工務店に落札、

昭和三十六年三月三十一日迄に完工するよう、工事契約をした。

完工後は病室、二〇室が増設され、千葉大学医学部より、外科医を招聘して、村診療施設の万全を期し、村民の健康に寄与するものである。

尚本件については二十二日の村議会において第一号議案として満場一致可決されました

◎二、畜産センター畜舎工事入札について

十二月二十一日、役場会議室に於て、河内村、篠崎工務店竜ケ崎市、桜井建設K K、阿見町細谷建設K K等三社により競争入札が行われ、篠崎工務店に落札した。

畜舎等七棟　三一一坪

工費　六百八十万円

但生板中学校、校庭に三十六年三月二十五日迄に完工、工事契約をした。

完成後は、種豚を導入し、仔豚の生産を行え、村内各農家に仔豚を分譲し、肉豚として養育し、これらの共同出荷により、農家経済の発展を図るものである。

拠出制国民年金（強制加入）

拠出制国民年金については度々パンフレットや広報紙上で、制度についての解説やお願いを致してきましたが、この制度は皆さんの恩給制度でありますのですから未だ加入届（被保険者資格届）をお出しにならない方は大至急届出を済して下さい。

◎満二十才より満四十九才までのものは所得有る無しにかゝわらず、又生活保護を受けている方も必ず届出をしなければならない義務があります

ただいま、届け出をしてから、次の条件に当てはまるものは保険料の免除申請が出来ることになっております。

◎保険料の免除

一、法定免除、福祉年金受給権者、生活保護を受けているもの

二、申請免除

1. 世帯の場合（二人以上）十三万円以下免除　十三万円＝十六万円迄認定（世帯の構成人員、身体状況等による）十六万円以上非免
2. 単身で世帯を構成している場合
五万五千円以下免除　五万五千円〜六万五千円まで（生活状況、身体状況、他世帯との均衡等により考慮）
3. 雇庸人の場合（農事屋、商店屋、飲食店員等）現物給付（食事、その他）以外の所得二万四千円以下免除、二万四千円以上非免

尚、保険料の免除についてくわしく知りたい方は役場、国民年金係へ問い合せ下さい

◎法定免除申請免除の用紙は役場にあります。

一人びとりの理解と協力で
国保の赤字をなくしましょう

十一月末現在における河内国保の赤字額3,645,000円

三十五年度決算見込みにおいて

只今、役場係員が、毎日、毎日、皆様の家庭を訪問して、滞納分の整理に努めておりますから、皆様には河内国保の健康を取戻す意味において一層の御協力をお願い申し上げます。

△村民の健康は先づ国保の健全から▽

道路台帳作成について

道路台帳は町村合併により旧村より引継いだものでは、その後の市町村合併等の状況の変化によりまして道路整備計画その他計画樹立に対して正確を期す事が出来なくなりましたので只今村として道路台帳整備のため各地区の道路の測量を実施致しておりますので皆様の御協力をお願い致します。

▲訂正▼　先月号広報中表彰者生板地区　有本キミさんは表彰者ではありませんでした。お詫び致します

☆たすけあい運動　一品もちより……　「1日〜31日」

「せんたくしていただいたら
一枚といわず半分さしあげます」

みんなで明るい お正月を

この歳末助け合い運動は思まれない人々にせめてお正月のおもちをおくってみんなで明るいお正月を迎えようと、誰からともなく、ごく自然に生れ、「米一握り、下着一枚」とわづかでも心のこもった、持ち寄り運動が展開されてから十余年っかり私たちの心の中にしみ込み年々活発になっています。仂きたくても働けない人、病気で困っている人、あるいは年老いて、身寄りがない人にとりあえず、私達みんなの愛の手をさしのべて、少しでも明るいお正月を迎えるようにしてあげたいものです。

そしてこれらの方々が一日も早く希望あるしっかりした家庭生活をとりもどしていたくように。

家畜飼育
先進地視察記

村産業振興会畜産部として、今後村畜産の振興を図る意味において、去る十一月末神奈川県下畜産飼育優良地の視察を行ったわけであります。

◎一、保土ケ谷家畜研究所

こゝは主として、家畜飼料について研究が行われており購入飼料にて、乳牛、豚、鶏の飼育がなされており、その飼料の配合等については時間の都合上簡単な説明に終ってしまったが、養豚の場合は、蛋白質を多く与える事によって赤肉が増大するといわれております。

◎二、平塚市豊田養豚所

此処は四人にて共同管理を行っており、まだ発足以来日が浅いので詳しいデーターは知る事ができなかったが、養豚経営の共同化の動機について、は次のようにいわれておりました。

耕地が少なく、単に米麦生産からのみの収益では、生活の面で困難をきたす為、此の打開策として、各個が飼育していた数頭の豚をもち寄って、しかも共同で多頭飼育を行って収益を上げようというのだそうであります。

豚舎は、農業改良施設資金（畜舎の造成に要する資金）により建築し、管理、飼育の面においては一日一人、交代に出勤し、飼料の購入等については、週一度会合を催して協議する事になっている。

◎三、横浜市菅田町愛鶏園本園

経営者は斉藤寅松さんという人、経営の動機は、最初十羽の鶏を購入、病の栄養源として採卵であった。病が回復するにつれ、大々的な養鶏を志し、現在の三万五千羽バタリー式飼育に成功、現従業員十二名によって管理されている、鶏卵販路は農協を通して行われ、又鶏糞は乾燥して、北海道方面に送っている。

尚、糞鶏は一日30～40羽、その補いは育雛室にて五千羽飼育し、プロパンガス温室、年間四回切替いる事によってなされている。鶏種は全部白レグである。

◎四、横浜市ケ尾の酪農経営

当地の場合は畑六～七反、田二～三反位という少ない耕地で、換金作物としては、米、麦、それに蔬菜が主であり、文字通り曲り角にあるといわれる現農業経営からの脱却と収益では、目増しに上る生活水準に追従困難な為、酪農を採り入れることにし、関係者、指導者の意見を基として行われるようになったのだという。又その共同化（四人共同経営）によって圃場、及び労働力を計画的に利用する事機械的家畜飼育でなく、値かな手間賃と、堆肥増産により、地力を維持増進し農業経営金繰りをより有利にする事を考えて、畜産の導入を図ったならば安定性と永続性に富んだ経営が可能であると思われます

◀養豚場を視察する一行▶

七月からずっと独無沙汰しています。七月初に伺ったときは運動会とかで休講になりそれ以来二ケ月間調査の為宮崎、島根、静岡、長野と歩いて居りました。秋になると農繁期にかゝり、麦まきだとか何とかで二三度駄足を踏む結果になり、とんだ講師の通知があったら出向くことにしたいと思っています。

先々月号でしたか、鳥取の青年達が河内の印象記を書いていましたね。読んで面白かろう思ったもしたが、よそから見たらあゝいうことにもなるということに気付かねばなりません。

短期大学のことについて、どういうことか知らないが、とやたら言う人がいると聞きました。そういう世評には、云っている鳥取青年の足もとに及ばないようにしなければなりません。

実は神奈川県の山中に津久井という町があって、そこで河内のような教育が始まりましたが、一昨日開講になりました。ただ、こゝで来る間に私は随分良い勉強をしました。

計画は一応河内の学科表を参考にして役場でたてました。そこで町の指導層の人が集まって討論しましたところ、明日にも役立たないものは駄目だから農業講座として技術教育に主力を置けということになりました。勿論私は人間教育が先だと主張し通しました会議は仕方なく県の係官も呼び広く諸団体の代表を集めて第二回目の討論会を持ちました。そこで技術関係と社会関係に半分づつ時間を割当てることにしました。ところがそのとき青年代表が、私達は技術関係の講義には魅力を持たないし、又期待もしない。勿論それが大事なことは判るが自分達にはそれ以前にやらねばならないことがある。簡単に言えば土性骨を入れてほしいということなのだ、という。

こゝは鳥取県の山中に津久井という町があって、そこで河内のような教育が始まりました。一昨日開講になりましたが、こゝで来る間に私は随分良い勉強をしました。計画は一応河内の学科表を参考にして役場でたてました。そこで町の指導層の人が集まって討論しましたところ、明日にも役立たないものは駄目だから農業講座として技術教育に主力を置けということになりました。勿論私は人間教育が先だと主張し通しました会議は仕方なく県の係官も呼び広く諸団体の代表を集めて第二回目の討論会を持ちました。そこで技術関係と社会関係に半分づつ時間を割当てることにしました。ところがそのとき青年代表が、私達は技術関係の講義には魅力を持たないし、又期待もしない。勿論それが大事なことは判るが自分達にはそれ以前にやらねばならないことがある。簡単に言えば土性骨を入れてほしいということなのだ、という。

農家短期大学の友へ

高松圭吉

機関は原案を引込めざるを得なくなりました。というのは青年達がもっと基本的な物の考え方なり見方なりを教えろというのです強いて云えば激動する農政下われ〳〵はどうあるべきかを教えろというのです。そうすると年上の人達が（聽講生は十八才から三五才迄の各層にわたっている）たしかに青年達の云う通りだ、こういうところに来て勉強する者は多かれ少なかれ農業技術の専門書を読んでいるし、具体的には普及員に聞くこともしている。然しそれでも判らない問題が多くあるから来ているので、技術教育に時間をさかず、徹底的に政治経済の基礎を教えて欲しい。と云い出しました。その日は忙しく結論が出ないうちに帰りました。

そのまゝ開講式になりましたが、さてその当日、青年達から活潑な意見が出され指導目を書いて貰ったもので検討したところ、希望して一番多いのが保育という科目でした。私もこれが何のことか判りませんでした。すると隣に居た普及所長さんが、多分牛豚の飼育だよと云ったので、養豚酪農がまみつゝあるところだから成程と思って、やはり技術的なことなのかと青年に聞いてみましたら、そうじゃない。人間の保育のことですというのです。赤ん坊の世話を聞き作ら先だって河内の人達が神奈川県下の共同経営を見て廻ったときの、恐らく云う、そこで人間の育ちかたから社会への順応のしかた全般について教えてほしいということでした。

保育という言葉をどうして思ったのだろう。どうも俺は百姓だといって一つのカラにとじこもっていたのだろう。そのため他の社会人達から最近強く感じた。何故なのだろう。どうも俺は百姓だといって一つのカラにとじこもっていたのだろう。そのため他の社会人達から最近強く感じた。何故なのだろう。どうも俺は百姓だ

今後の農業経営においては、主穀生産一本やりでは生活面において、困難をきたす事は明らかであり、家畜を購入し、莫大な利益、所謂投資金が16万かゝるという、牛乳管理は二人づゝ一日交代でやっている。此処で私達は共同経営をする上に最も大事なことを尋ねましたら、曰く「人の和ですよ、四人が同じ気持になる事ですよ」と、いとも簡素な答え、なる程、答は簡単でも、一番難しい事だと思った。

今後の農業経営において